

# 難民のための援助事業

世界には、戦争や災害などでやむなく故郷を追われた、難民と呼ばれる人が大勢います。いつ帰ることができるとはわからないまま、難民キャンプでの厳しい生活を続ける人々。十分な食事が取れなかったり、劣悪な環境からマラリアなどの病気に苦しむ人も少なくありません。



マラリアの検査に当たる現地の医療検査技師。病気の早期発見に必要不可欠な顕微鏡は、日本から送られたもの。(写真・AMDA)

## スーダン難民の健康を守る 医療活動を展開

アフリカのスーダンでは、1980年代半ばから内戦が続き、多数の国内避難民を生み出しました。その数は、人口の1割に当たる約300万人。首都カルツーム市が位置するカルツーム州だけでも、50万もの人々が4つの難民キャンプに分かれて暮らしてい

ます。

国内避難民の流入は、カルツーム州の生活環境に大きな影響を与え、感染症やマラリアなどが流行。患者の集中によって、医療機関がパンクするといった深刻な問題が生じています。

このカルツームの郊外で医

療援助活動を行っているのが、日本の民間海外援助団体(NGO)のひとつである「AMDA(アムダ)」。マラリア予防のための地域保健活動やマラリアの薬の提供、子供のためのポリオワクチンの投与などを続けています。

この活動のため、AMDAでは、メデイカルコーディネーター3名を現地へ派遣。スーダンの医師協会とともに診療活動を展開し、現地の診療

設備の充実に尽力しています。また、顕微鏡を使った診断技術の指導も行うなど、地元の治療関係者はもちろん、難民キャンプの人々からも厚い信頼を得ています。

今後、AMDAでは、これらの活動と並行して、保健医療の分野にも積極的に取り組む予定。住血吸虫症、結核、エイズなど、現地で問題になっている病気の実態解明と予防に力を注いでいく計画です。



ポリオワクチンをスーダン難民の子供に与える日本人看護婦。子供のためのワクチンの投与は、医薬品の不足が続くカルツームで、特に必要とされている医療活動のひとつです。(写真・AMDA)